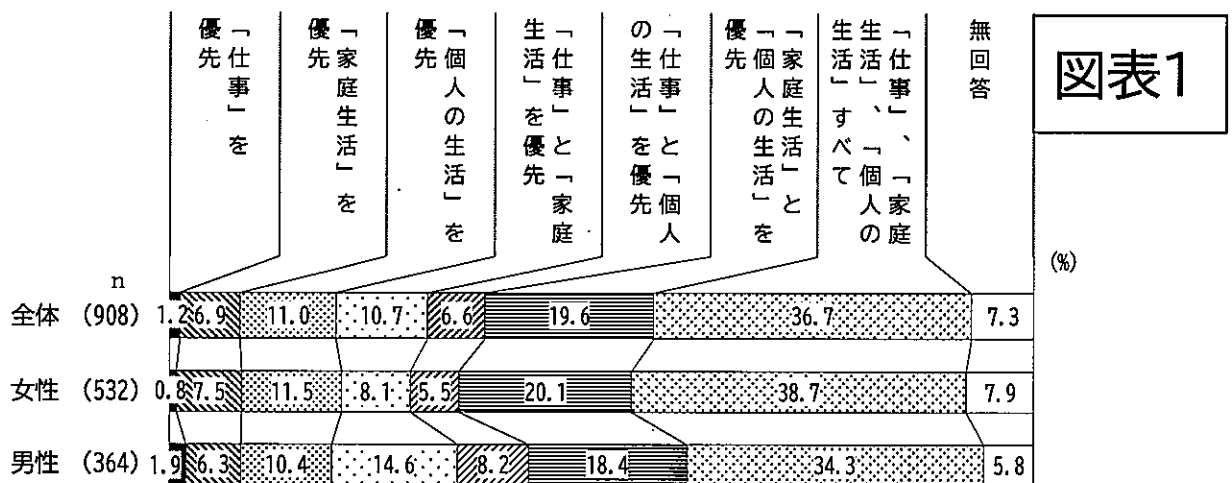


(2) 仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（理想と現実）

問4 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

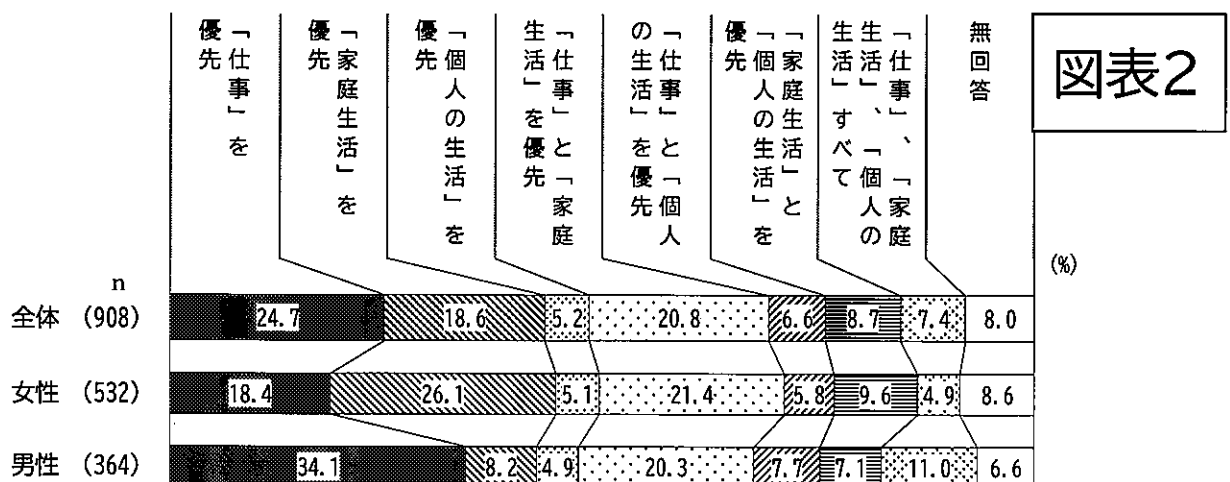
【自身の「理想」に近い優先度】

仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度を性別で見ると、男女ともに「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて（女性38.7%、男性34.3%）が最も多く、次いで「家庭生活」と「個人の生活」を優先（女性20.1%、男性18.4%）が多い。



【自身の「現実」に近い優先度】

仕事、家庭生活、個人の生活の現実の優先度を性別で見ると、女性は「家庭生活」を優先が26.1%と最も多く、男性は「仕事」を優先が34.1%と最も多い。次いで、男女ともに「仕事」と「家庭生活」を優先（女性21.4%、男性20.3%）が多い。

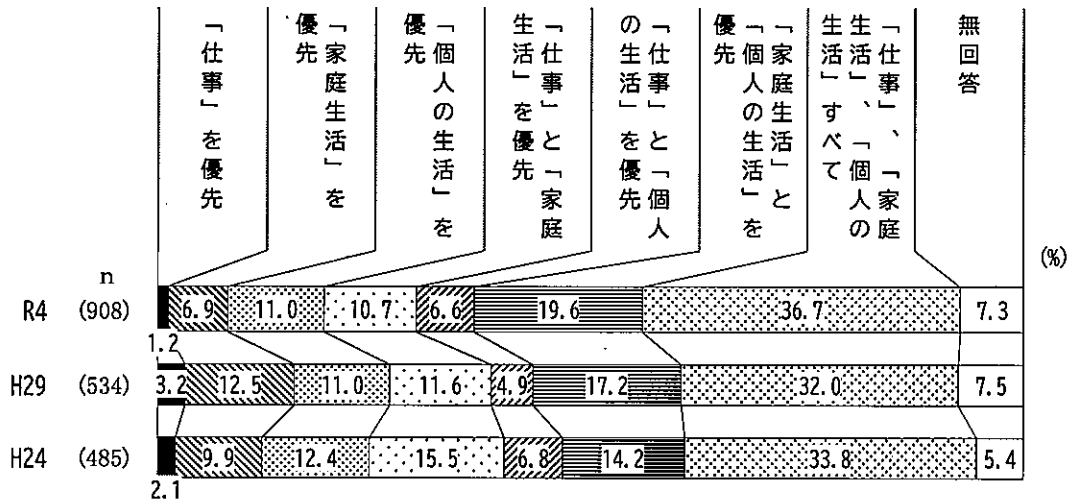


経年比較

(1) 理想の優先度

平成24年調査からの変化をみると、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべてについては、平成29年調査より4.7ポイント増加している。「家庭生活」と「個人の生活」を優先（平成24年14.2%、平成29年17.2%、令和4年19.6%）は年々増加傾向となっている。一方、「家庭生活」を優先は、平成29年調査よりは5.6ポイント減少している。

図表 仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度(経年比較)

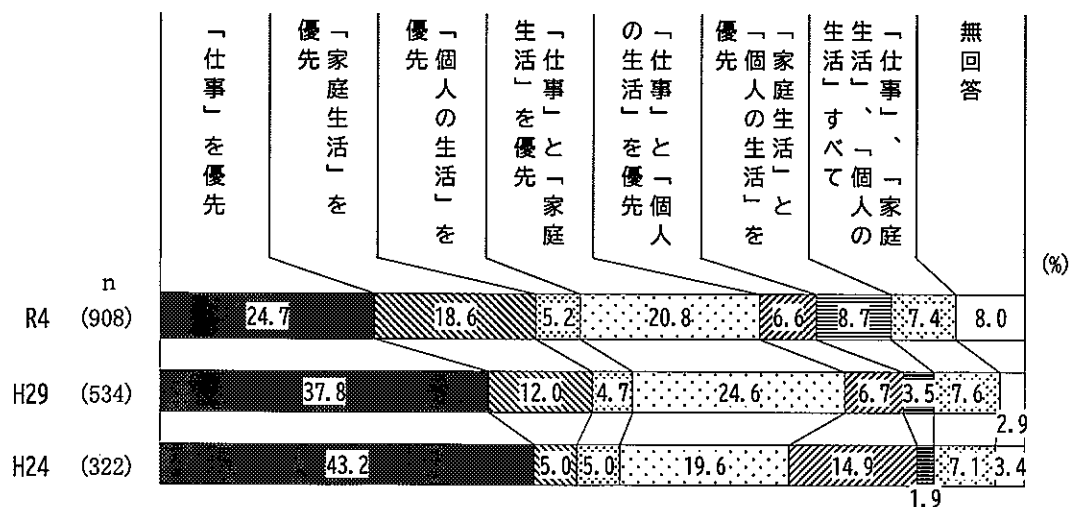


図表3

(2) 現実の優先度

平成24年調査からの変化をみると、「仕事」を優先（平成24年43.2%、平成29年37.8%、令和4年24.7%）は年々減少傾向となっている。一方、「家庭生活」を優先（平成24年5.0%、平成29年12.0%、令和4年18.6%）は年々増加傾向となっている。

図表 仕事、家庭生活、個人の生活の現実の優先度(経年比較)



図表4

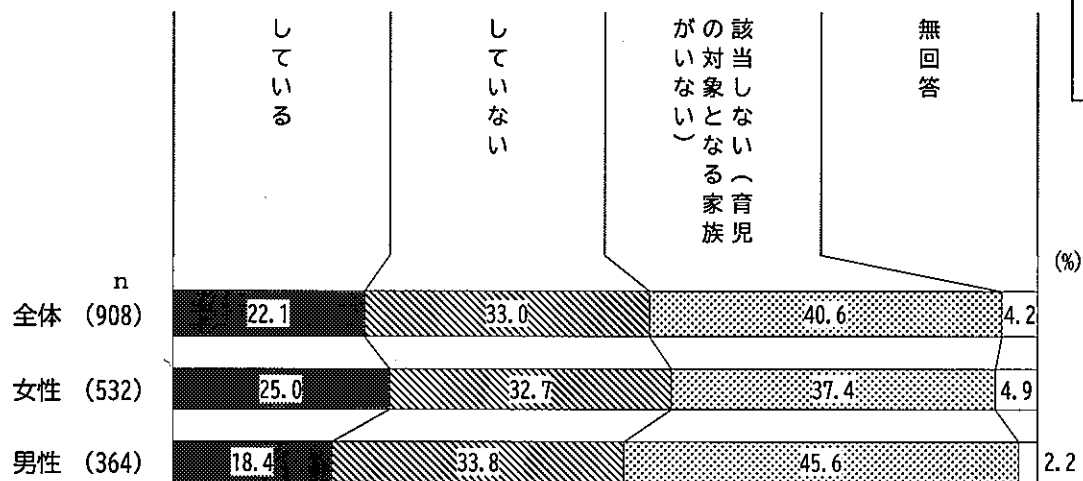
2 日頃の生活について

(1) 育児・介護・家事について

問1 あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護をしていますか。また、している場合は、どの程度時間をかけていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

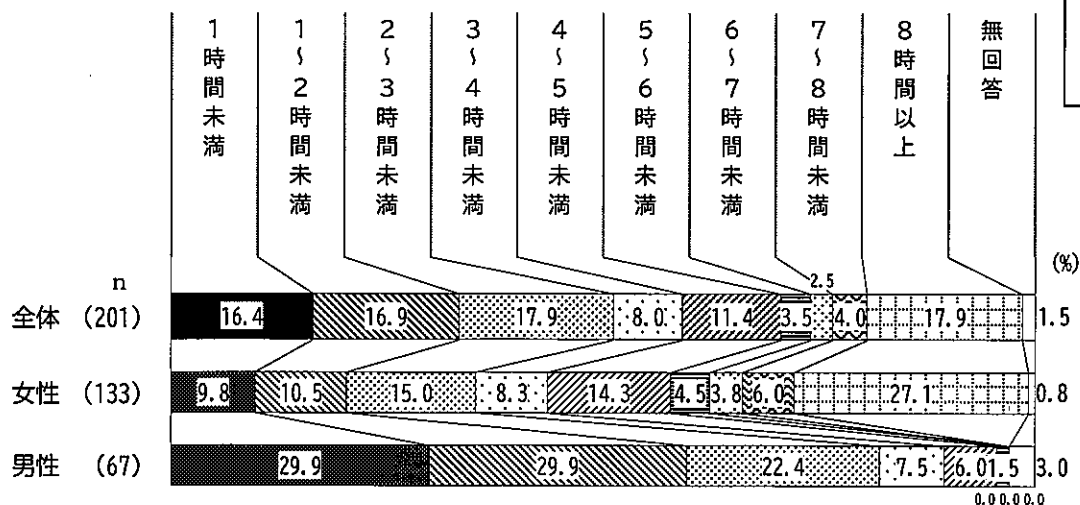
【育児】(身の回りの世話、付き添い、送迎移動など)

育児への従事状況を性別で見ると、「している」は、女性25.0%、男性18.4%と、女性が男性を6.6ポイント上回っている。



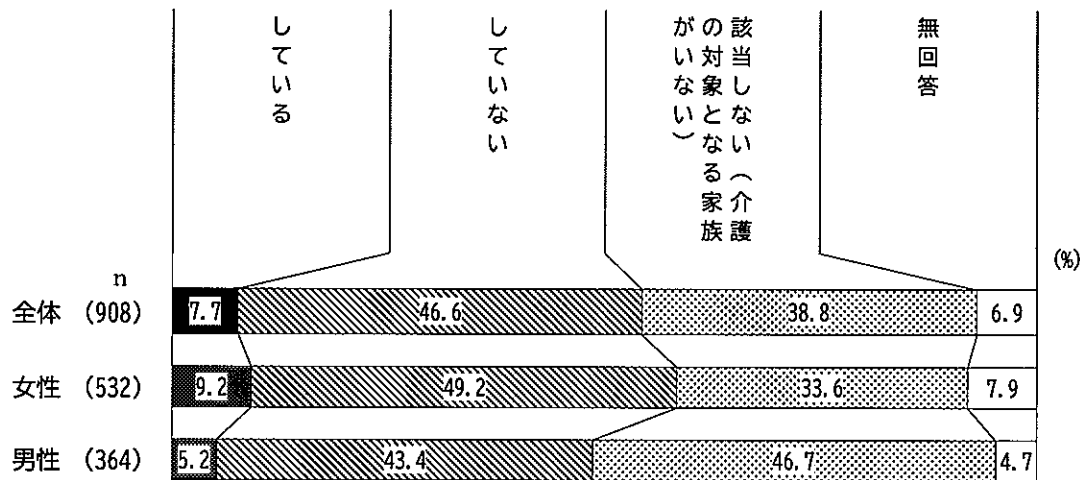
【育児】1日の平均時間

育児への従事の平均時間を性別で見ると、女性は「8時間以上」が27.1%と最も多い。男性は「1時間未満」と「1～2時間未満」がともに29.9%と最も多い。



【介護】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

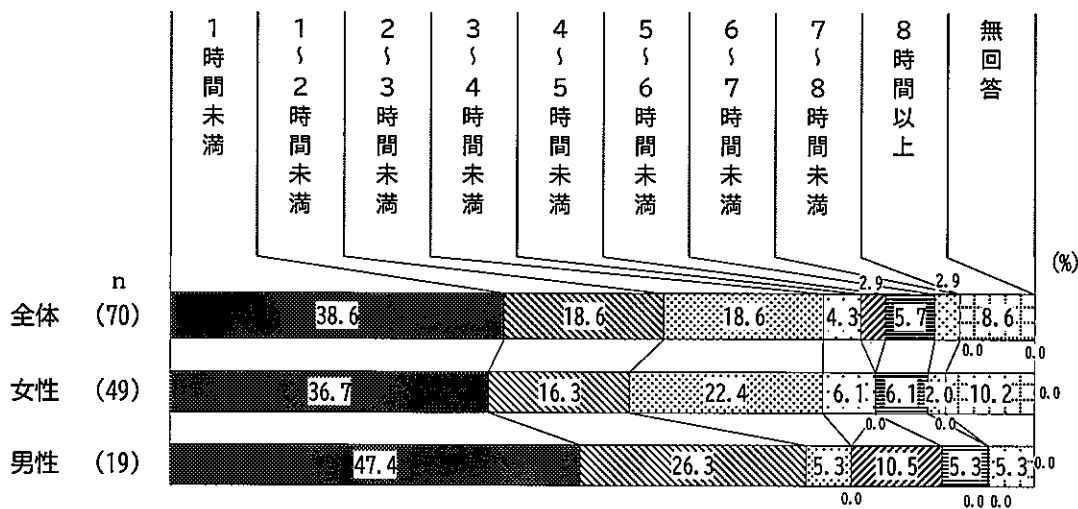
介護への従事状況を性別で見ると、「している」は、女性9.2%、男性5.2%と、女性が男性を4.0ポイント上回っている。



図表7

【介護】 1日の平均時間

介護への従事の平均時間を性別で見ると、「2～3時間未満」（女性22.4%、男性5.3%）では、女性が男性を17.1ポイント上回っている。「1～2時間未満」（女性16.3%、男性26.3%）では、男性が女性を10.0ポイント上回り、「1時間未満」（女性36.7%、男性47.4%）では、男性が女性を10.7ポイント上回っている。

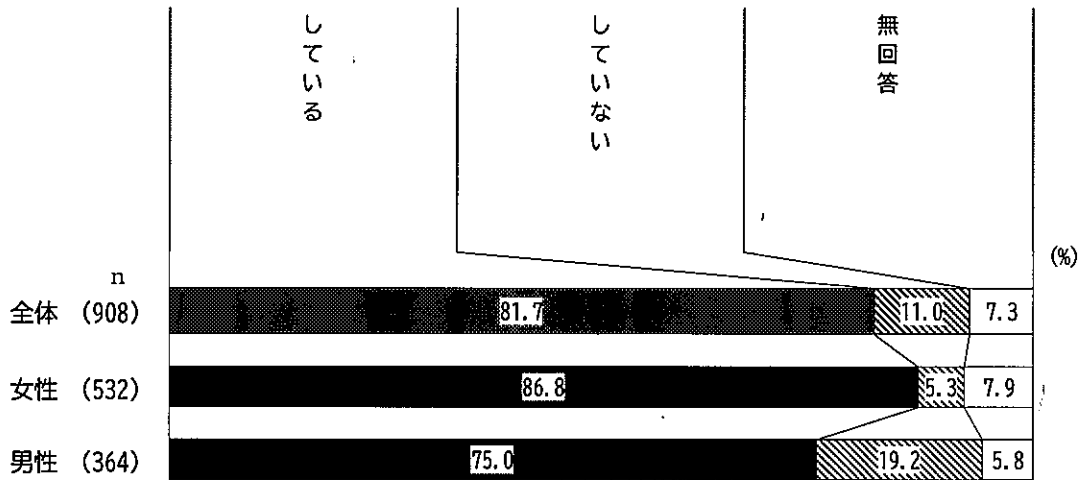


図表8

【家事】（食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れなど）

家事への従事状況を性別で見ると、「している」は、女性86.8%、男性75.0%と、女性が男性を11.8ポイント上回っている。

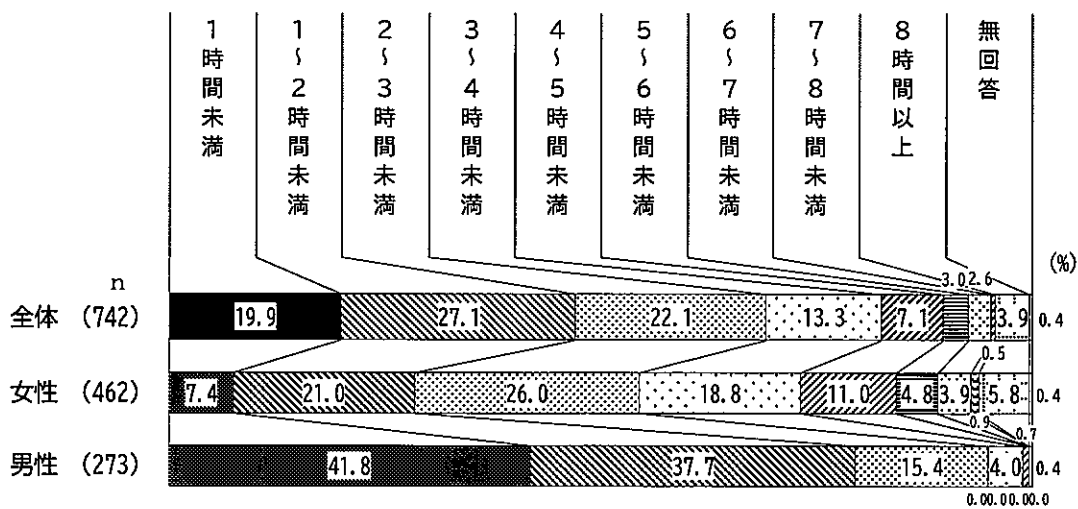
図表9



【家事】 1日の平均時間

家事への従事の平均時間を性別で見ると、女性は「2～3時間未満」が26.0%と最も多い。男性は「1時間未満」が41.8%と最も多い。

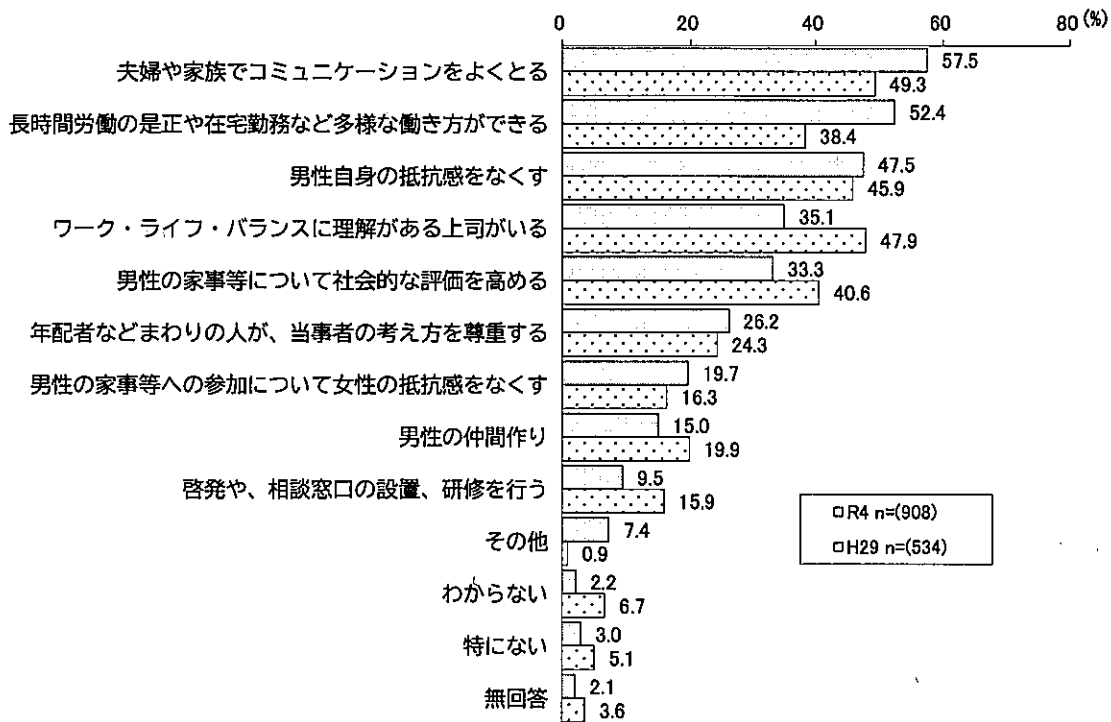
図表10



経年比較

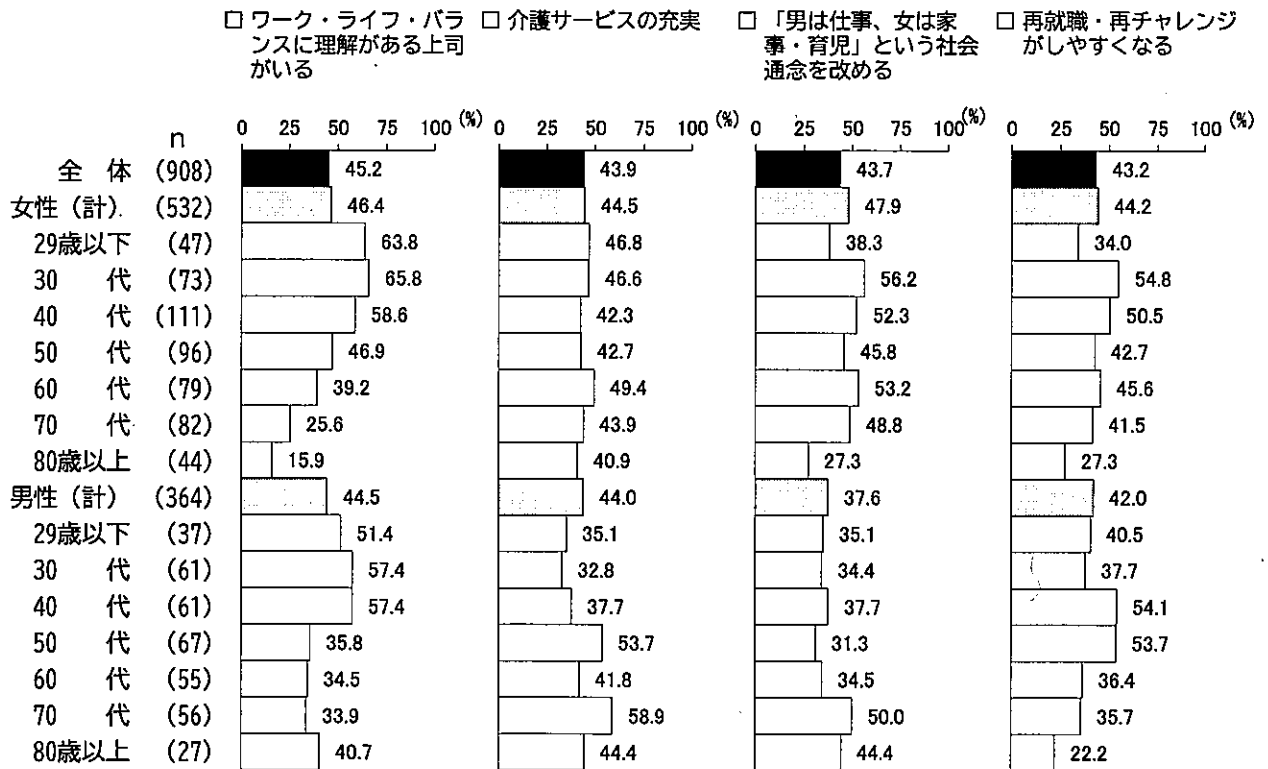
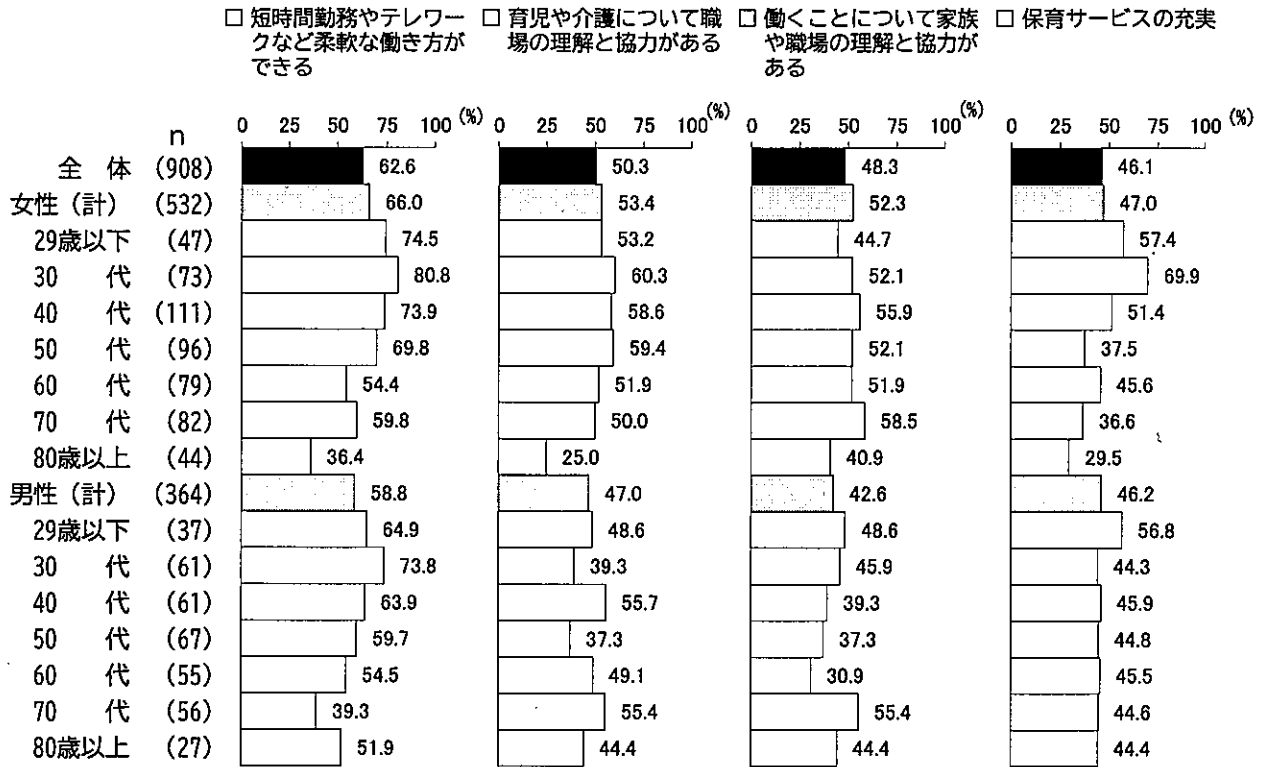
平成29年調査と比較すると、「長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができる」（平成29年38.4%、令和4年52.4%）は14.0ポイント、「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」（平成29年49.3%、令和4年57.5%）は8.2ポイント増加している。「ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる」（平成29年47.9%、令和4年35.1%）は12.8ポイント減少している。

図表 男性が家事等に参加するために必要なこと（経年比較）



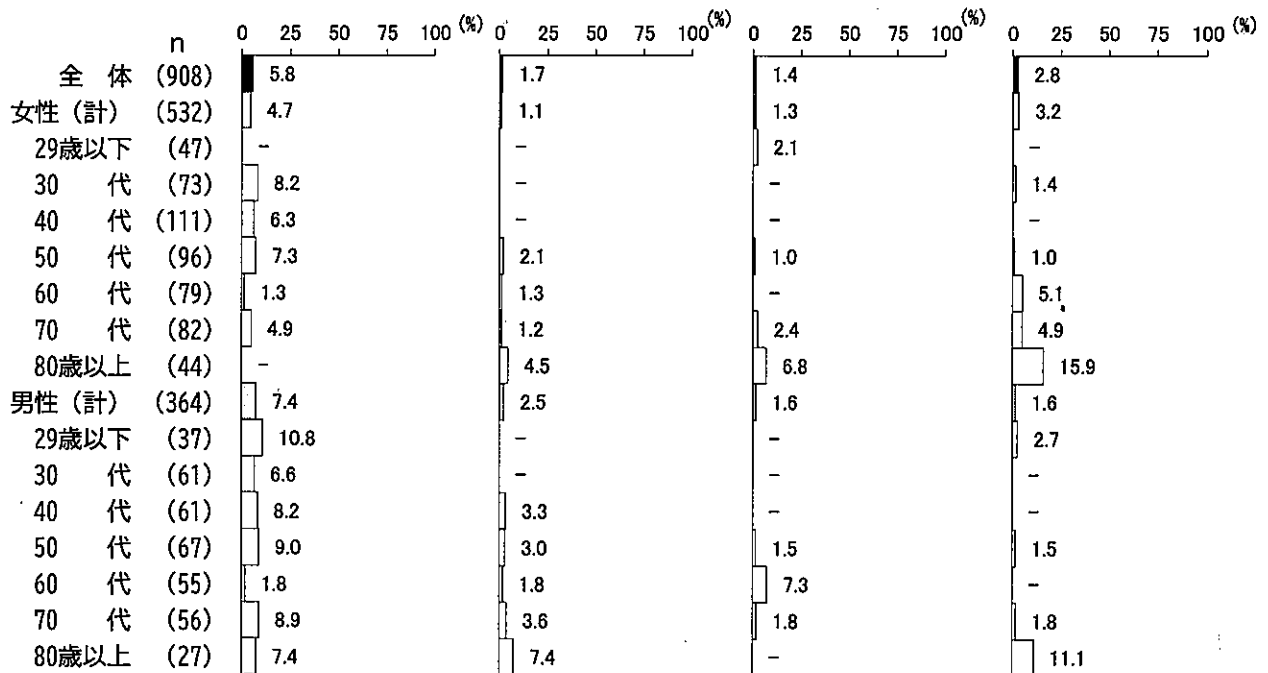
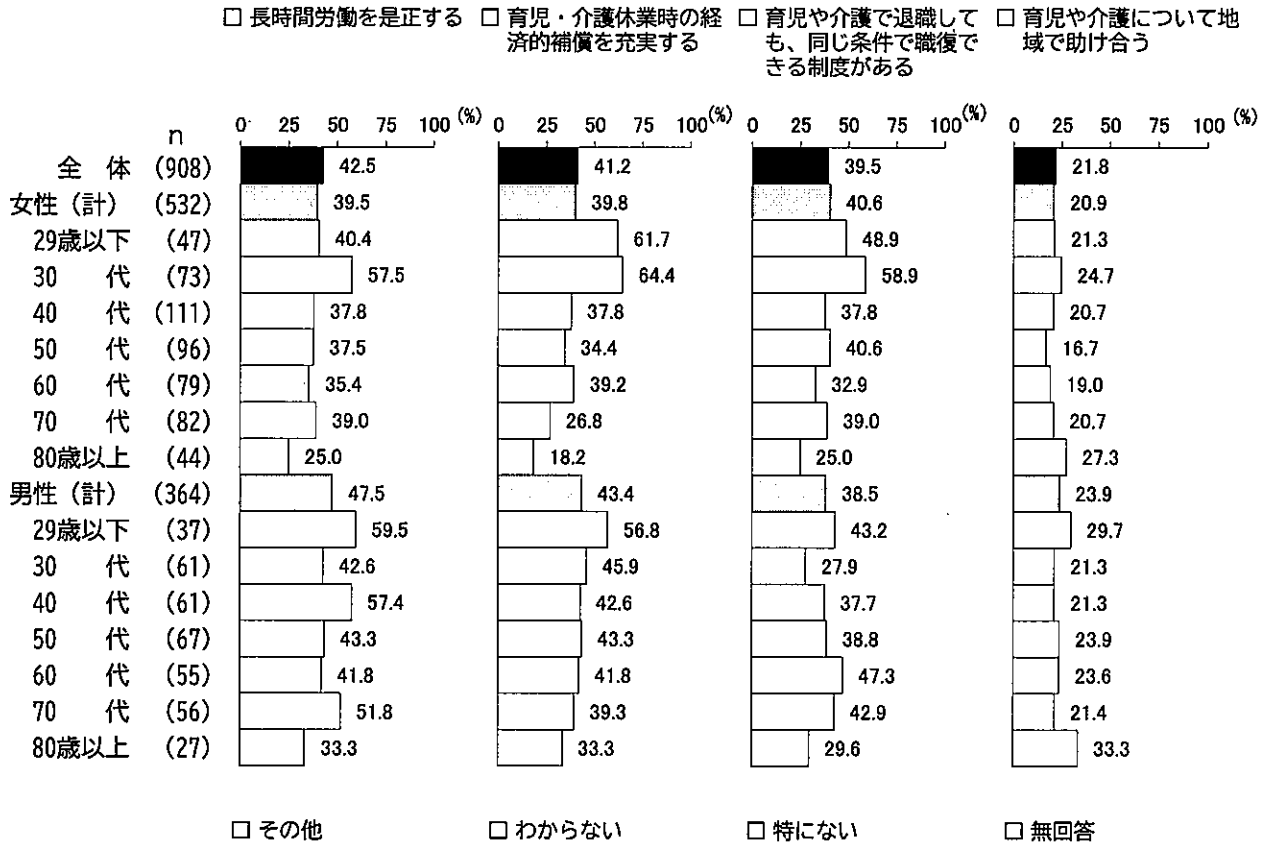
図表11

図表 性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと(全体、性別、性・年代別)①



図表12

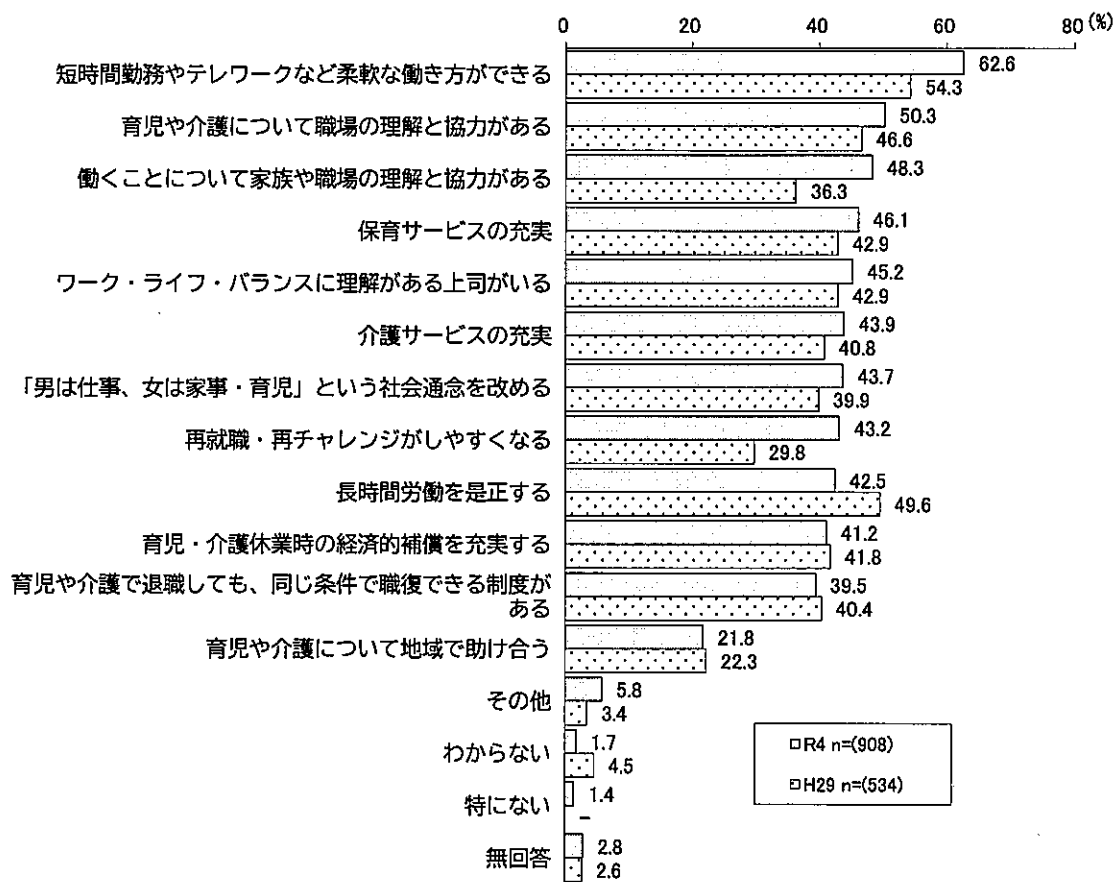
図表 性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと(全体、性別、性・年代別)②



経年比較

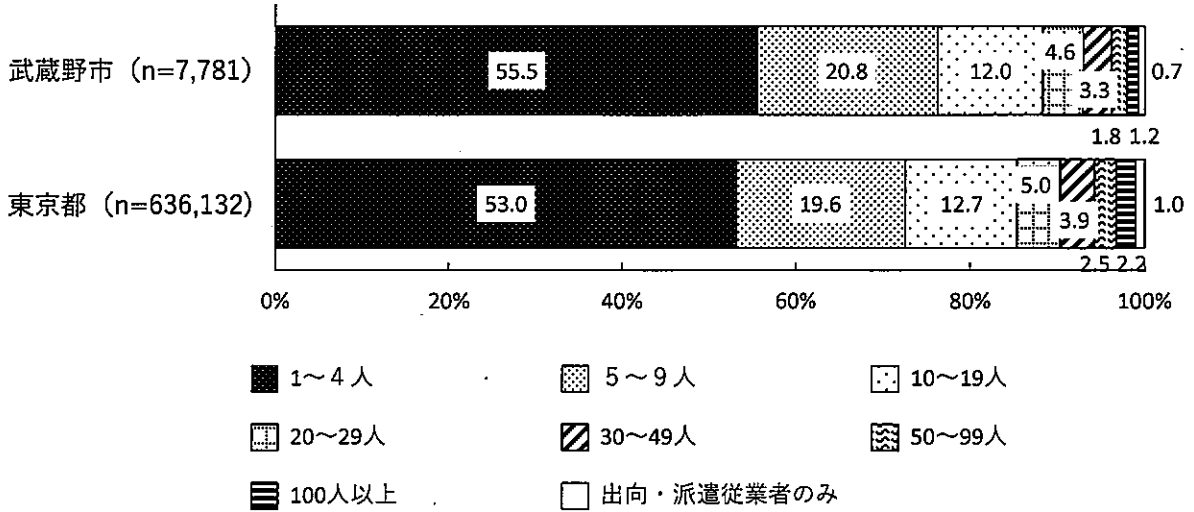
平成29年調査と比較すると、全体では「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」（平成29年54.3%、令和4年62.6%）は8.3ポイント、「働くことについて家族や職場の理解と協力がある」（平成29年36.3%、令和4年48.3%）は12.0ポイント、「再就職・再チャレンジがしやすくなる」（平成29年29.8%、令和4年43.2%）は13.4ポイント増加している。「長時間労働を是正する」（平成29年49.6%、令和4年42.5%）は7.1ポイント減少している。

図表 性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと(経年比較)



図表13

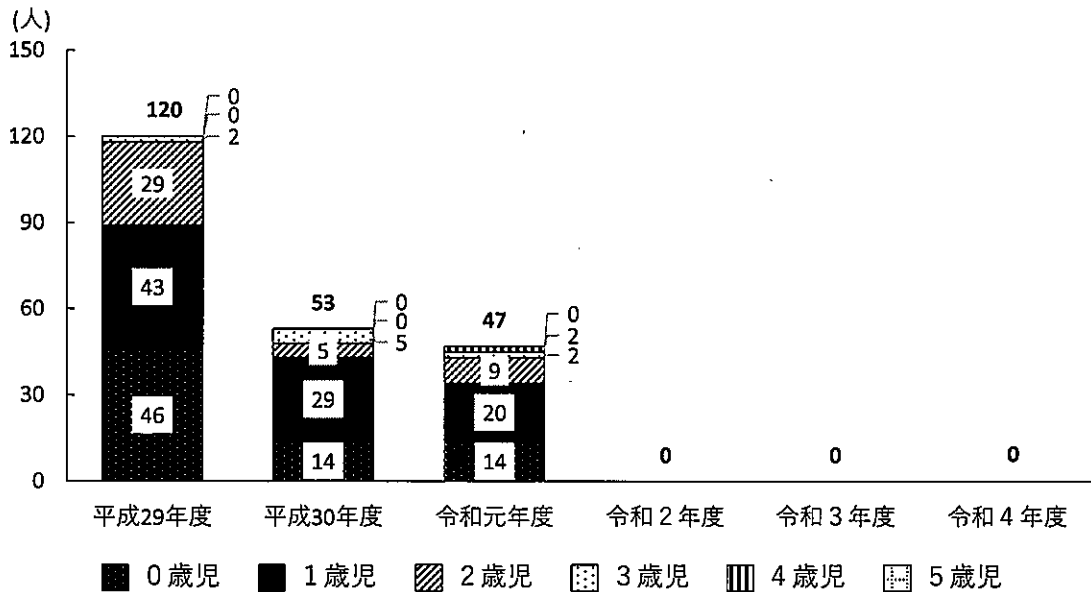
従業員規模別に見た事業所の割合（武蔵野市、東京都）



資料：総務省統計局「令和3年経済センサス」

図表 14

待機児童数（武蔵野市）



資料：「保育概要 2022」

図表 15

ア 育児の平均時間

育児への従事の平均時間を性別で見ると、女性は「8時間以上」が27.1%と最も多い。男性は「1時間未満」と「1～2時間未満」がともに29.9%と最も多い。

性・年代別では、女性の30代で「8時間以上」が52.9%と多い。

性・職業別をみると、男性正社員、正職員の「1～2時間未満」が35.3%と多く、女性は家事専業の「8時間以上」が33.3%と多い。

図表 育児の平均時間(全体、性別、性・年代別、性・職業別)

		調査数 (n)	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答	
全体		201	16.4	16.9	17.9	8.0	11.4	3.5	2.5	4.0	17.9	1.5	
性別	女性	133	9.8	10.5	15.0	8.3	14.3	4.5	3.8	6.0	27.1	0.8	
	男性	67	29.9	29.9	22.4	7.5	6.0	1.5	-	-	-	3.0	
性・年代別	女性	29歳以下	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
		30代	34	-	2.9	2.9	5.9	20.6	2.9	-	11.8	52.9	-
		40代	68	8.8	10.3	17.6	8.8	13.2	5.9	7.4	5.9	22.1	-
		50代	16	25.0	18.8	25.0	12.5	6.3	6.3	-	-	6.3	-
		60代	4	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-	-	25.0	-
		70代	5	20.0	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	20.0
	80歳以上	4	-	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	
	男性	29歳以下	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
		30代	24	16.7	29.2	29.2	12.5	8.3	4.2	-	-	-	-
		40代	27	22.2	40.7	22.2	7.4	7.4	-	-	-	-	-
		50代	7	57.1	28.6	-	-	-	-	-	-	-	14.3
		60代	5	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0
70代		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
80歳以上	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-		
性・職業別	女性	自営業主、自由業	10	10.0	-	20.0	10.0	30.0	10.0	10.0	-	10.0	-
		正社員、正職員	41	12.2	7.3	14.6	7.3	17.1	4.9	7.3	4.9	24.4	-
		パートタイム、アルバイトなど	39	10.3	17.9	10.3	12.8	7.7	5.1	-	7.7	28.2	-
		その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
		学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		家事専業	36	8.3	11.1	16.7	5.6	13.9	2.8	-	8.3	33.3	-
		無職	6	-	-	33.3	-	16.7	-	16.7	-	16.7	16.7
	男性	自営業主、自由業	7	42.9	14.3	28.6	-	14.3	-	-	-	-	-
		正社員、正職員	51	25.5	35.3	21.6	9.8	5.9	2.0	-	-	-	-
		パートタイム、アルバイトなど	3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3
		その他	2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0
		学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家事専業		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無職	4	75.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-		

図表16

(2) 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと

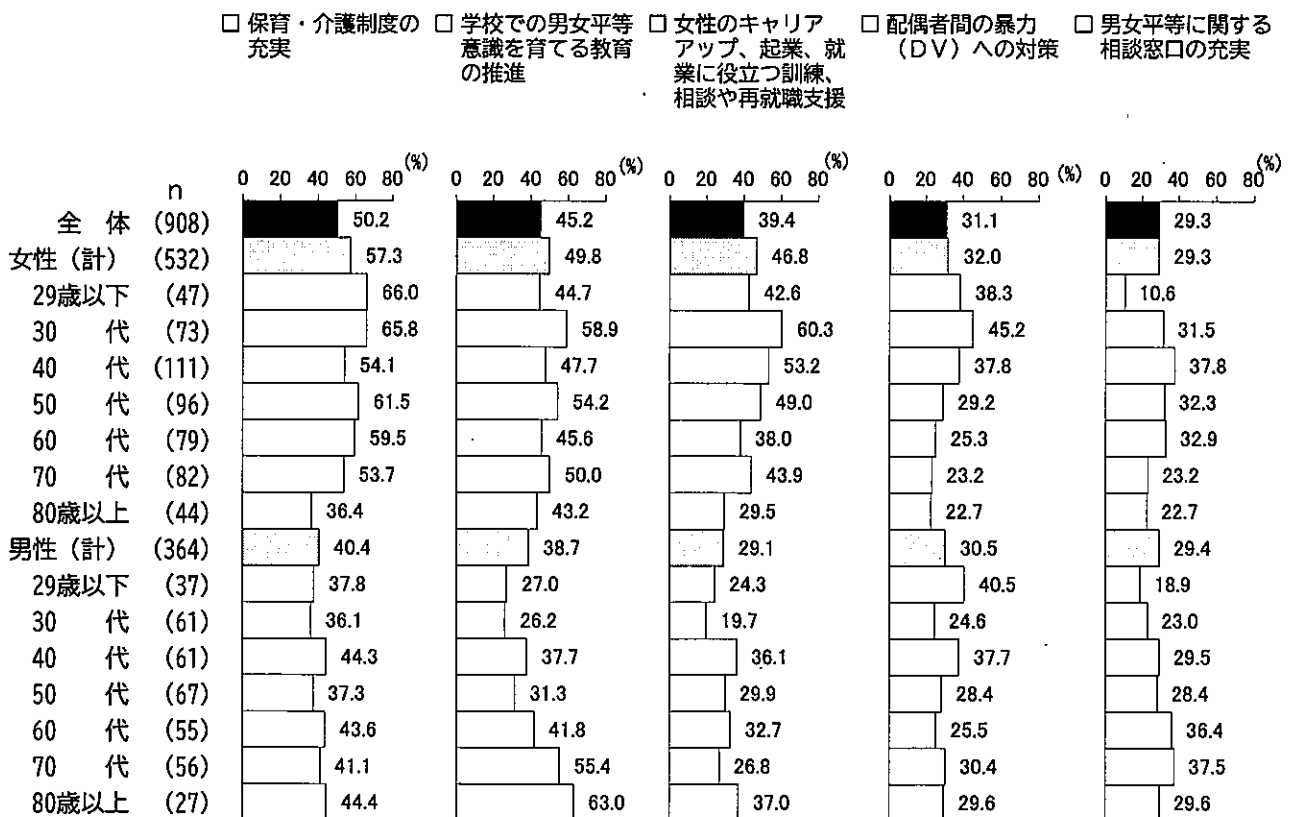
問20 あなたは、男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

男女平等社会を実現するために市の施策に望むことは、全体では「保育・介護制度の充実」という回答が50.2%で最も多く、次いで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」(45.2%)、「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」(39.4%)、「配偶者間の暴力(DV)への対策」(31.1%)となっている。

性別で見ると、男女ともに「保育・介護制度の充実」(女性57.3%、男性40.4%)が最も多く、女性が男性を16.9ポイント上回っている。次いで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」(女性49.8%、男性38.7%)では、女性が男性を11.1ポイント上回り、「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」(女性46.8%、男性29.1%)では、女性が男性を17.7ポイント上回っている。

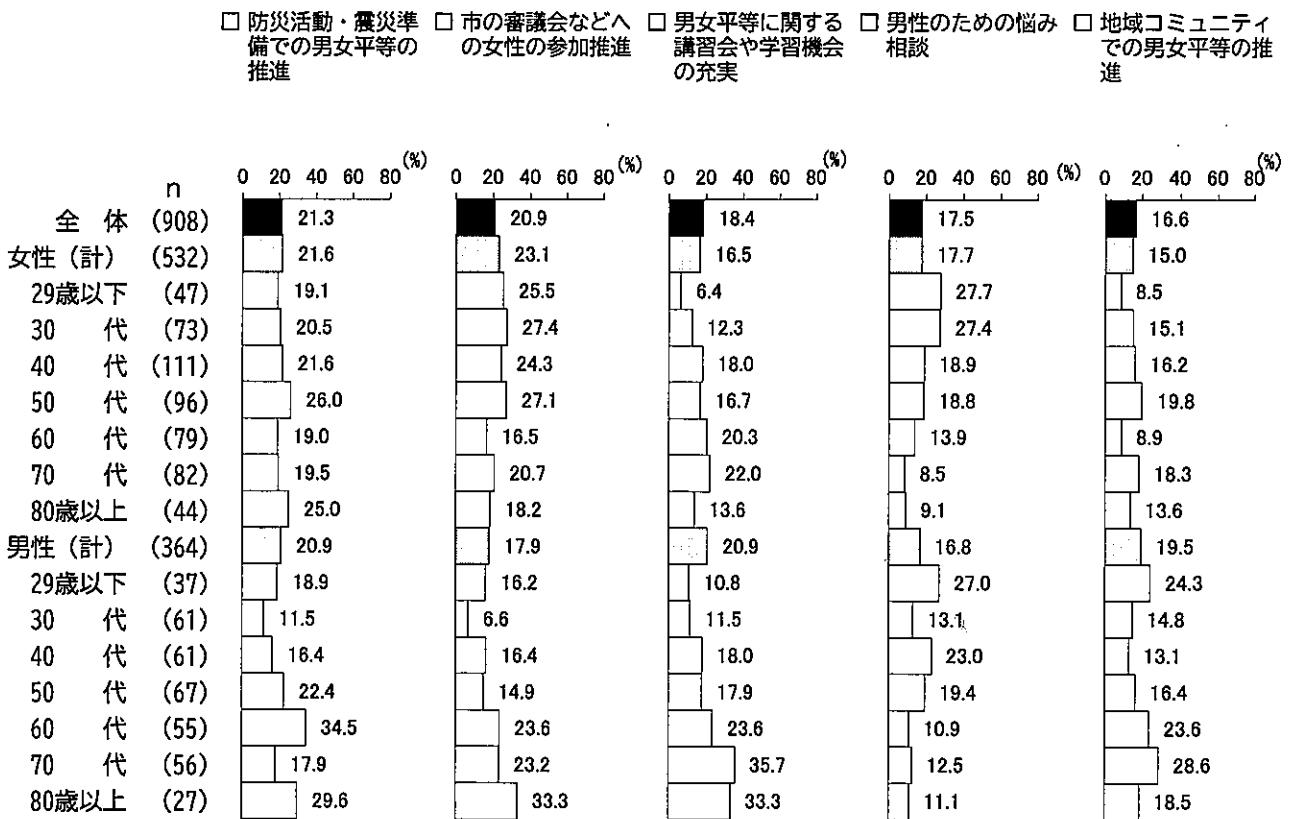
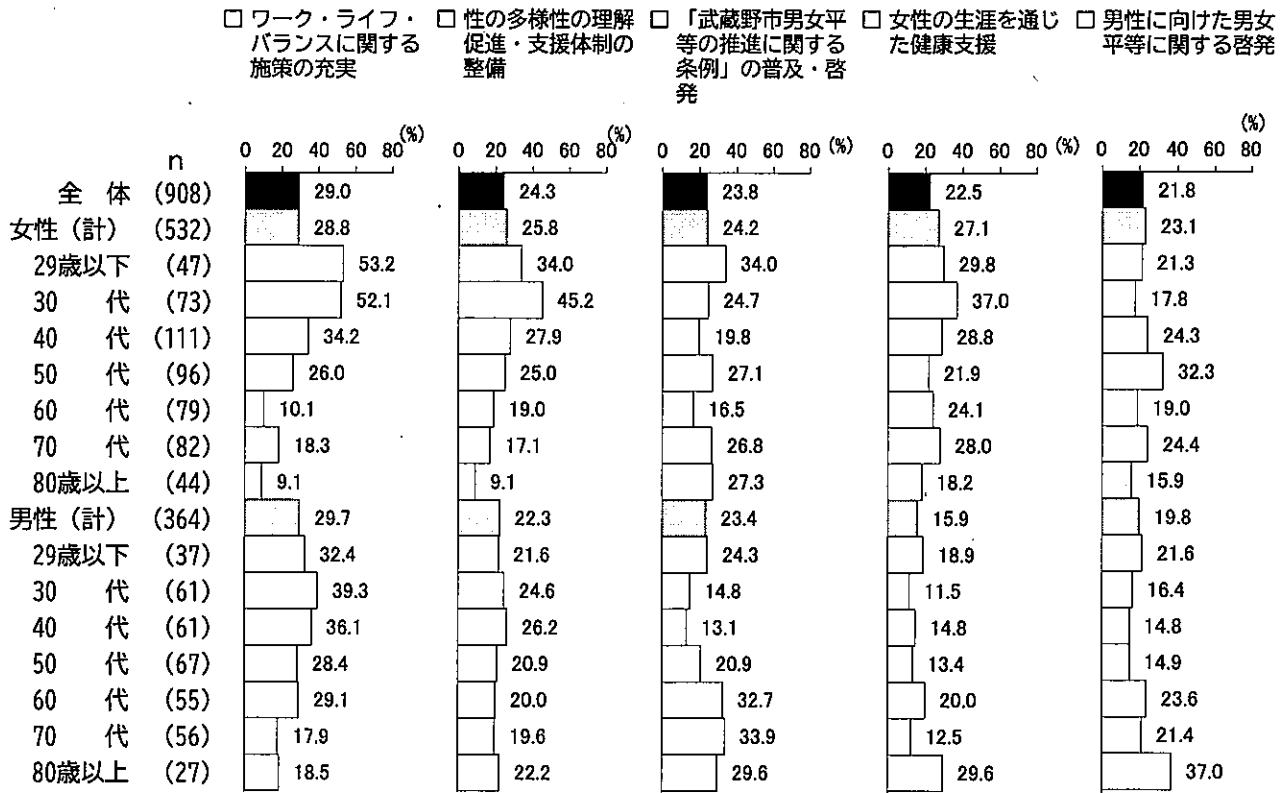
性・年代別では、「保育・介護制度の充実」は女性29歳以下(66.0%)、30代(65.8%)、50代(61.5%)で6割以上と多い。「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」は女性30代(58.9%)と50代(54.2%)で5割以上と多い。「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」は女性30代で60.3%と多い。「ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実」は女性の30代以下で5割台と多い。

図表 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと(全体、性別、性・年代別)①



図表17

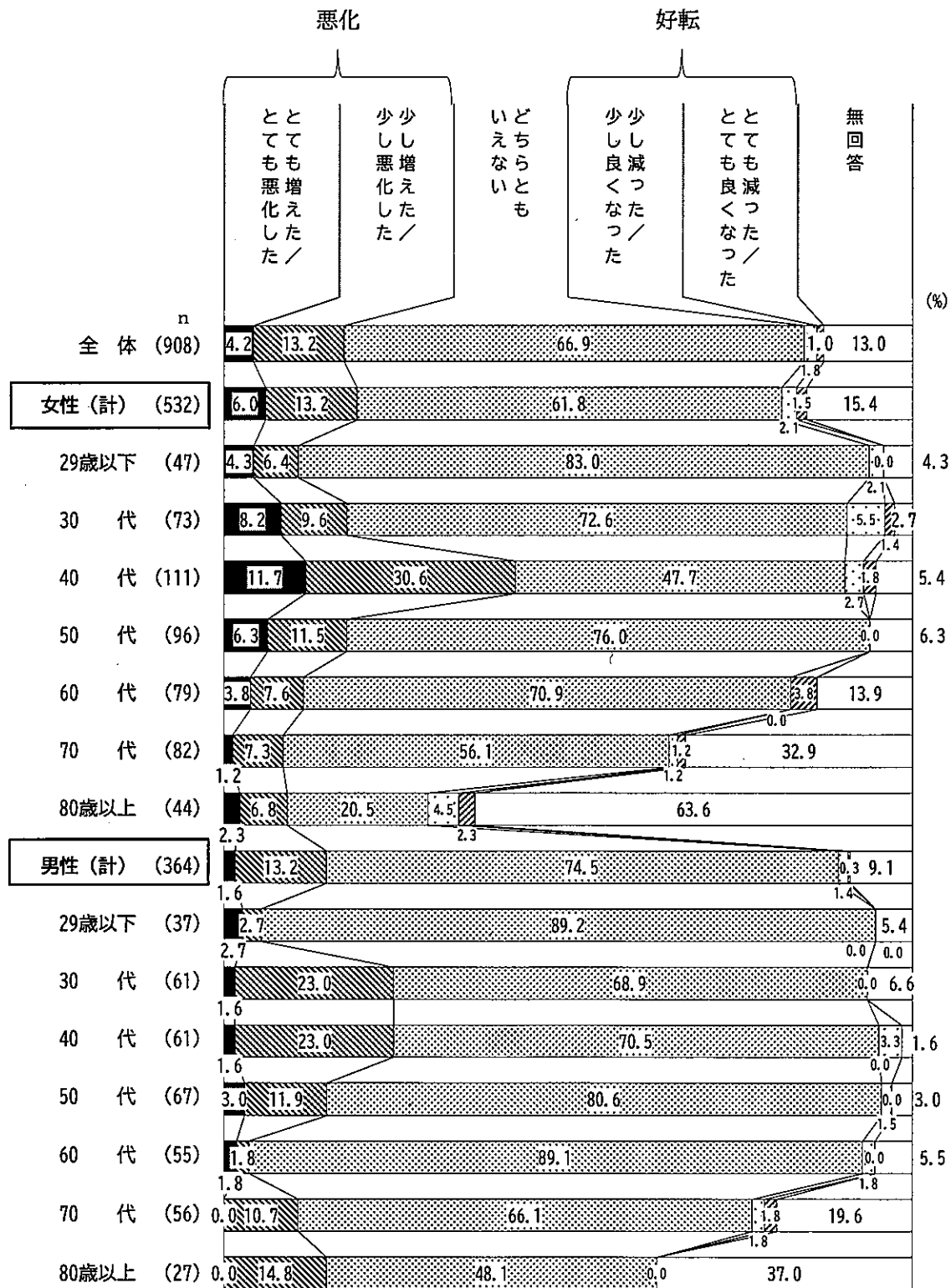
図表 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと(全体、性別、性・年代別)②



工 育児・介護の負担

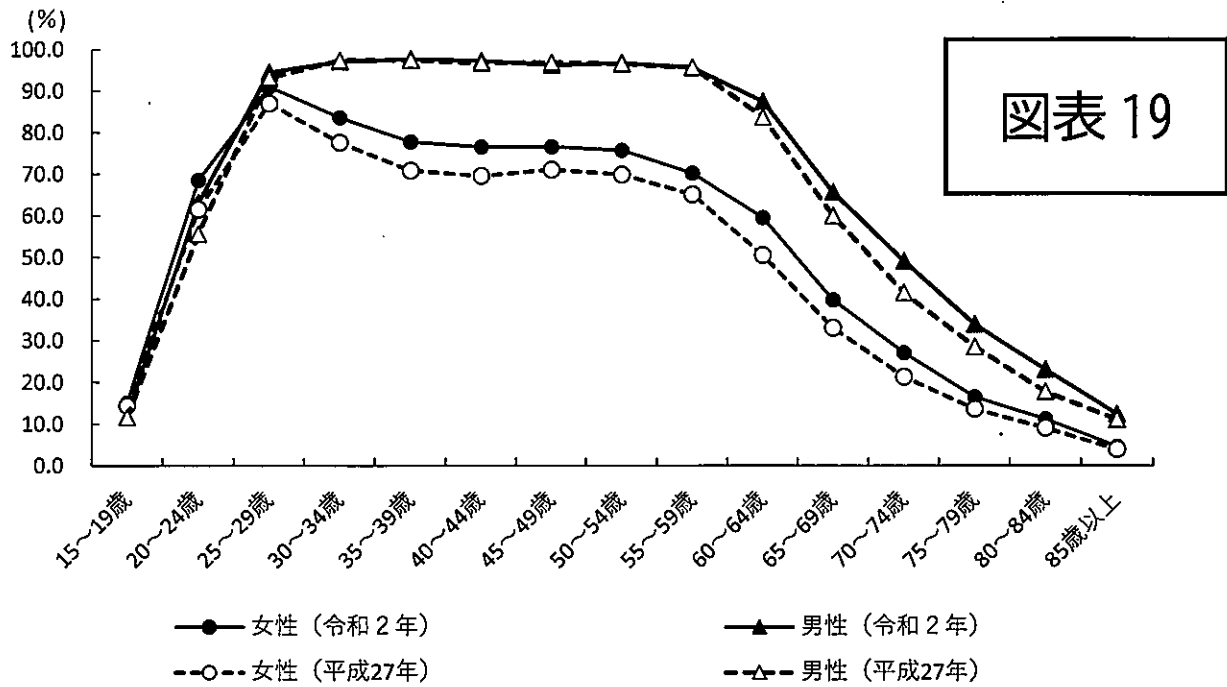
性別で見ると、＜悪化＞の割合は、女性が19.2%、男性が14.8%である。
 性・年代別では、＜悪化＞の割合は、女性40代で42.3%と最も多い。

図表 コロナ禍での生活や行動の変化「工 育児・介護の負担」(全体、性別、性・年代別)



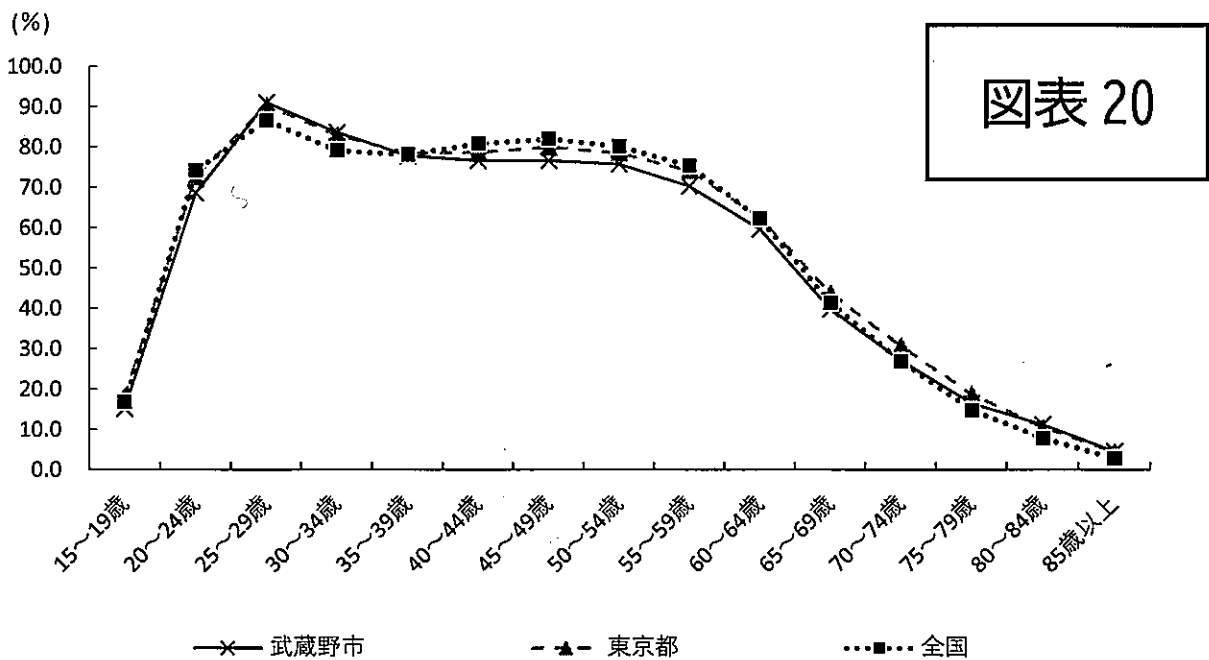
図表18

15歳以上の年齢階級別の労働力率の推移（武蔵野市）（性別）



資料：総務省統計局「国勢調査」（平成27年、令和2年）

15歳以上の年齢階級別の労働力率の推移（武蔵野市、東京都、全国）



資料：総務省統計局「国勢調査」（令和2年）

(5) 職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの

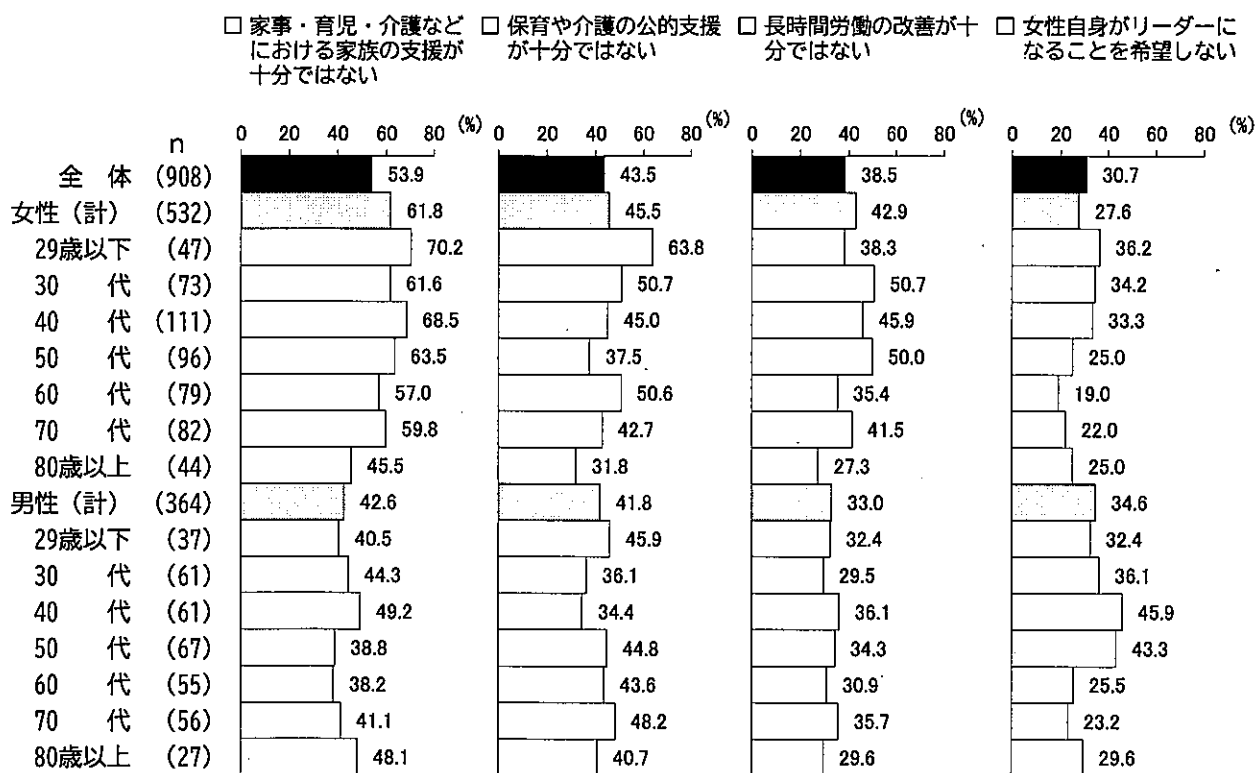
問6 あなたは、職場や地域の団体などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは、「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」という回答が53.9%で最も多く、次いで「保育や介護の公的支援が十分ではない」(43.5%)、「長時間労働の改善が十分ではない」(38.5%)、「女性自身がリーダーになることを希望しない」(30.7%)となっている。

性別で見ると、男女ともに「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」(女性61.8%、男性42.6%)が最も多く、女性が男性を19.2ポイント上回っている。また、「女性自身がリーダーになることを希望しない」(女性27.6%、男性34.6%)では、男性が女性を7.0ポイント上回る一方で、「顧客など外部の関係者が女性のリーダーを望まない」(女性25.9%、男性12.4%)では、女性が男性を13.5ポイント上回っている。

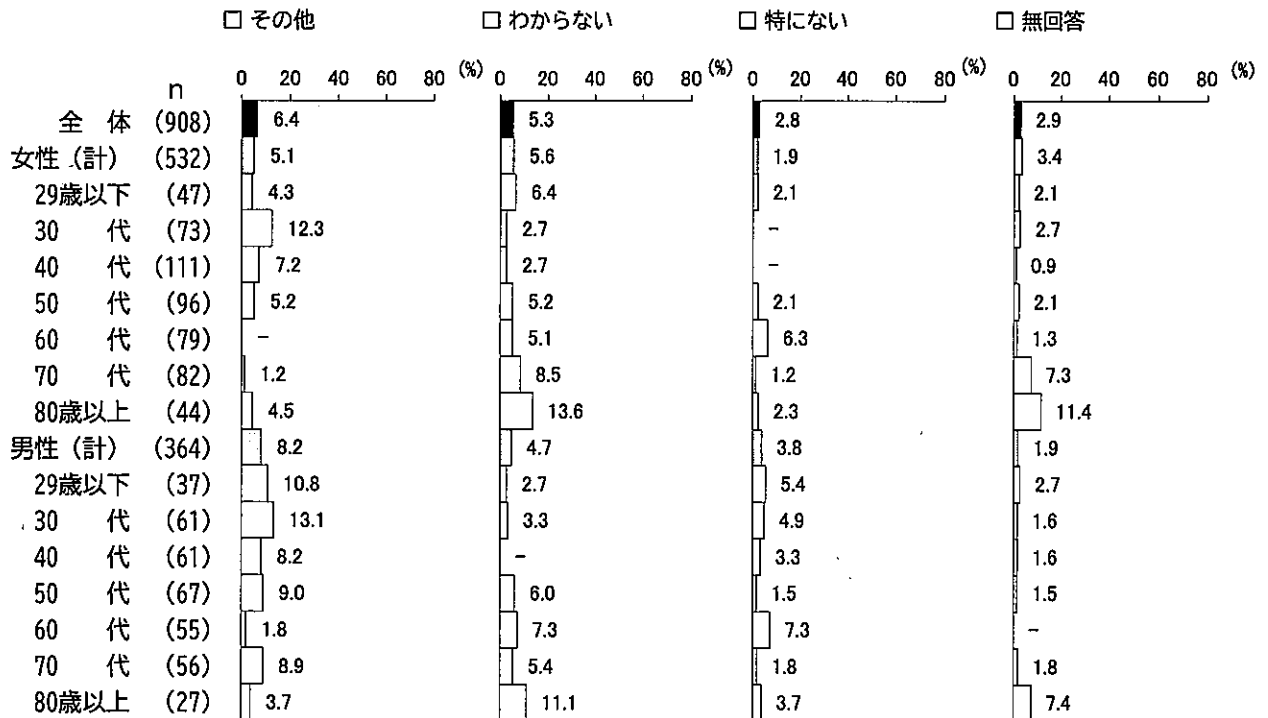
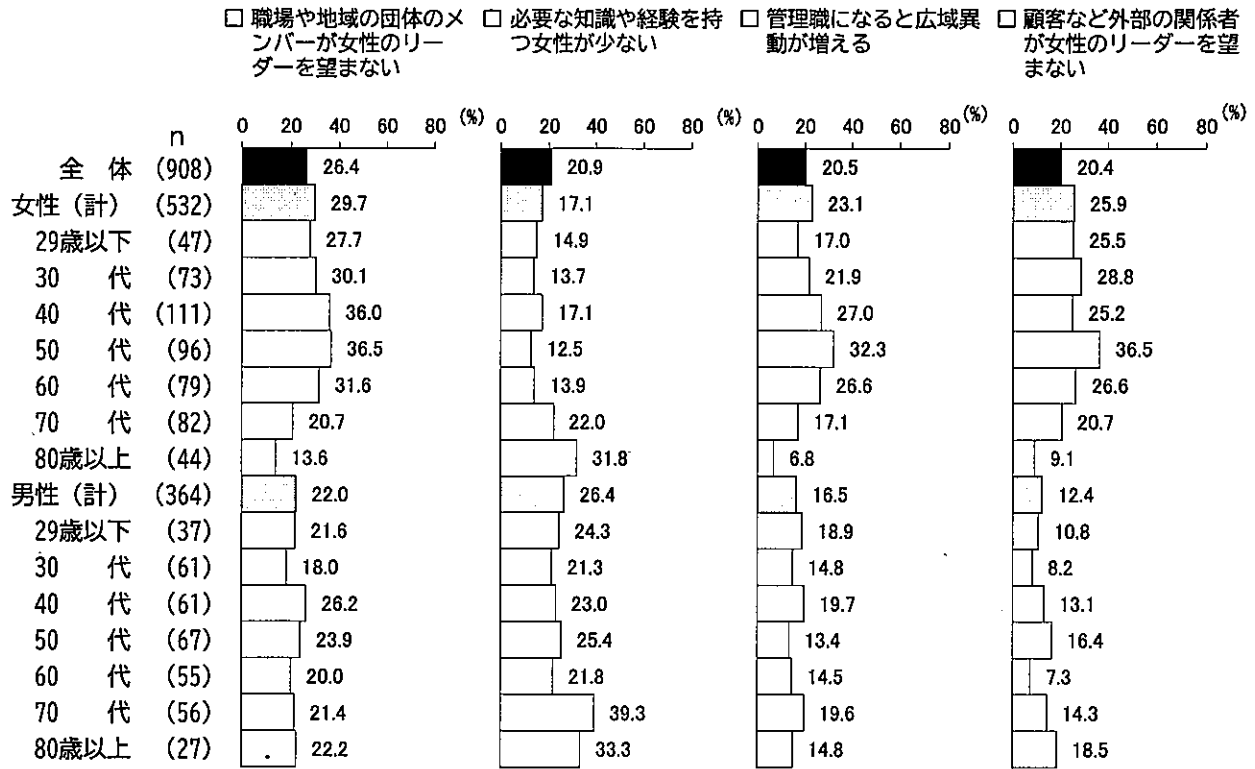
性・年代別では、「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」は女性29歳以下(70.2%)で最も多く、次いで40代(68.5%)である。「保育や介護の公的支援が十分ではない」は女性29歳以下(63.8%)で最も多く、「長時間労働の改善が十分ではない」は女性30代(50.7%)と50代(50.0%)が多い。

図表 職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの
(全体、性別、性・年代別)①

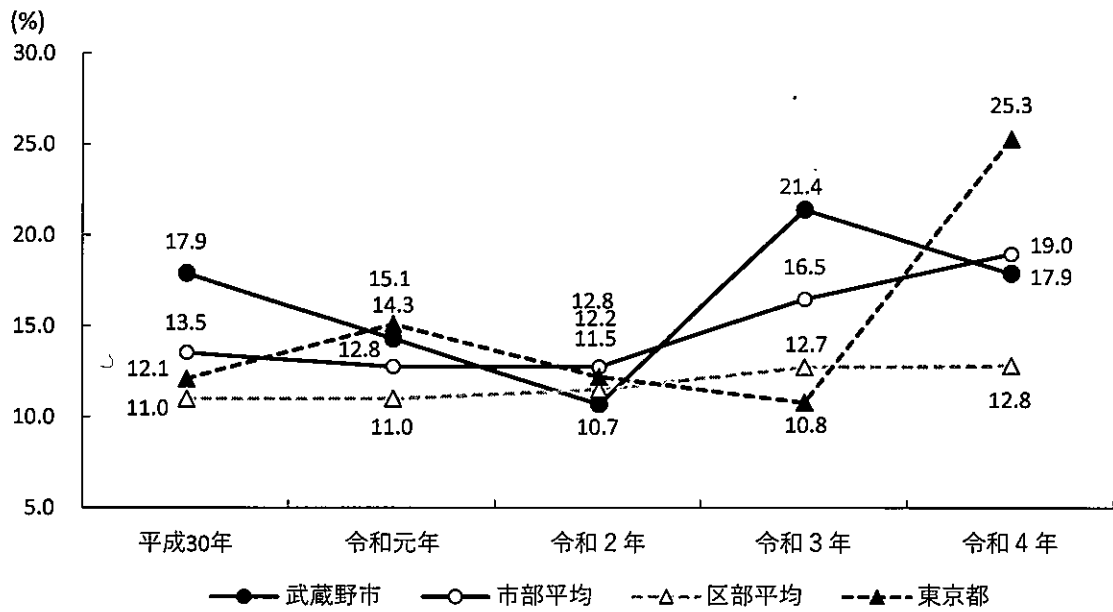


図表21

図表 職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの
(全体、性別、性・年代別)②



市町村防災会議における女性委員の割合※（武蔵野市、市部、区部、東京都）



※ 市町村防災会議の総委員数には会長を含む。

資料：内閣府男女共同参画局「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」（各年4月1日現在）

図表 22

(4) 性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと

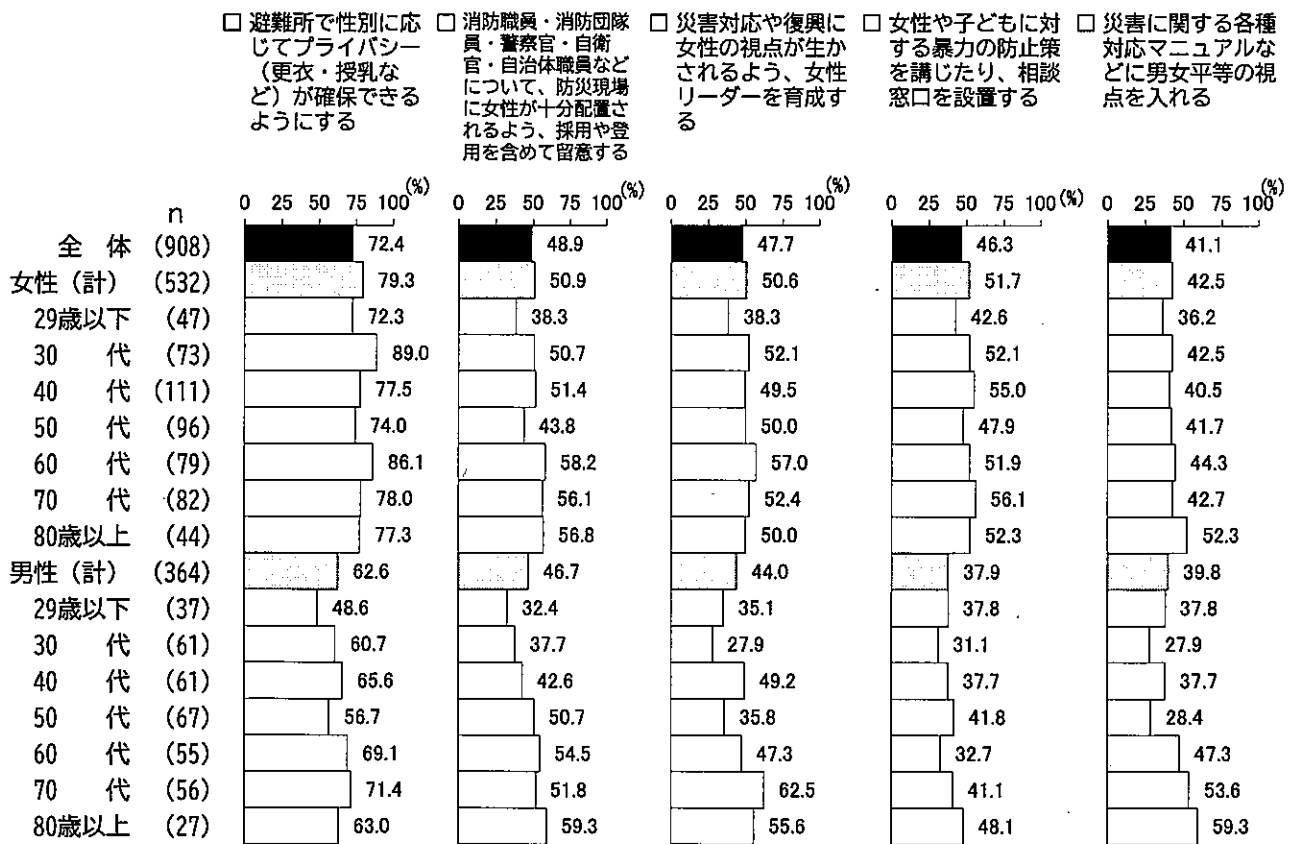
問10 あなたは、性別にとらわれない災害対策を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なことは、全体では「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」という回答が72.4%で最も多く、次いで「消防職員・消防団員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分配置されるよう、採用や登用を含めて留意する」（48.9%）、「災害対応や復興に女性の視点が生かされるよう、女性リーダーを育成する」（47.7%）、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する」（46.3%）となっている。

性別でみると、男女ともに「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」（女性79.3%、男性62.6%）が最も多く、女性が男性を16.7ポイント上回っている。

性・年代別では、「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」が女性30代（89.0%）と60代（86.1%）で8割以上と多く、「災害対応や復興に女性の視点が生かされるよう、女性リーダーを育成する」は男性70代（62.5%）が多い。

図表 性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと
(全体、性別、性・年代別)①



図表23